

やつおめて

2025 No.53 (10月号)

編集発行: 和田まちづくりセンター 協力: 和田まちづくりセンター運営推進委員

電話: 45-1918

E-mail: wada-k@ph-hamada.jp

～和田地区いろいろ見て歩く記～

モミジやイチョウなど、木々の葉が赤や黄色に変わり、季節はすっかり秋模様になりました。今年は、厳しい暑さと雨不足でお米の生育が心配されましたが、田んぼの稲穂が黄金色に輝いていました。自然豊かな和田の恵みに感謝しつつ、大切に手をかけて育てられたお米を大事に味わって食べたいですね。(つぬ)

つぬです！



事業所紹介

8月18日(月)、19日(火)、ふるさと再発見事業「第9回和田地区の事業所紹介を作成しよう！」を地区内の中学3年生4名と一緒に行いました。

今回は、株式会社アサヒにお願いし、快くご協力いただきました。吉田社長の経営理念や仕事に対する思いなどを知り、中学生にとって大変貴重な時間になりました。出来上がった、中学生が作成した紹介パンフレットは、年内各戸に配布いたします。出来上がりを楽しみにお待ちください。

アサヒの皆様
大変お世話になりました。

自分達で写真を撮ります



株式会社アサヒが手掛けた家

ヴォイスレコーダーを聞きながら
取材内容をパソコンに入力(文字起こし)



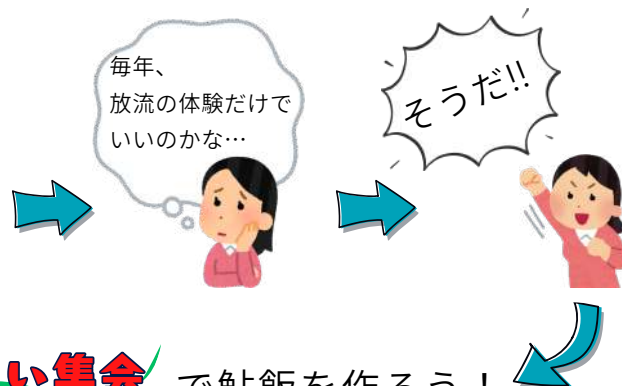
イラスト編集ソフトを使い、掲示物の作成



鮎の投網

鮎の放流から ふれあい集会へ

4月20日（日）**鮎の放流**を実施



子ども会との協働事業 **ふれあい集会** で鮎飯を作ろう！

戸川地区の鮎取り名人 岡本義徳さんに、食育活動として、自分達が放流した鮎で鮎飯を作り「命をいただく」大切さを学びたいのですが、鮎を捕っていただけませんか？と、ご相談に行きました。若鮎と落ち鮎で捕り方が違うこと等、ひとつひとつ丁寧に説明してくださり、事業に必要な鮎約50尾を用意していただけることになりました。

8月20日（水）**投網**に、同行させていただきました。

岡本義徳さん（左）、啓嗣さん親子



網を打った後、網から逃げる鮎を、素手で捕まえます。



想像以上に冷たい川での作業に、「子ども達のために」という思いで、受けてくださった岡本さんには感謝しかありません。

捕った鮎は、子ども達がほぐしやすいようにと、奥さんの都子さんが、内臓処理を行い、半冷凍にしてお下されています。

大切にに使わせていただきます。

本来は、捕まえた鮎を**腹網**に入れて、続けて2回目を打つのですが、写真撮影用に岸に戻って来ていただきました。



第2回奉仕作業



8月31日（日）、生い茂っていた雑草が刈り取られ、和田側法面が大変きれいになりました。ご協力くださりありがとうございました。

地域に花を植えよう！

まちづくりセンター校舎前花壇

奉仕作業に合わせて、子ども達がセンター前花壇の枯れた花取りや肥料やりを行いました。5月に子ども会や地域の方々が一緒に植えてくださった花々が、色とりどりに咲いています。



旭中学校 ふるさと再発見 パート2

6月11日（水）に実施したふるさと再発見ツアーで、中学1年生21名が和田桃について学びました。その後の学習で、「和田桃の魅力を伝えたい」と、中学生から◆「桃のスイーツ」 ◆「桃の皮と葉っぱを使った染物」の提案があり、桃和会に和田桃を10個と葉っぱ30枚を提供していただきました。



桃パフェ（牛乳もちと桃ジャム）を作りました。



今後の展望など中学生と一緒に話し合いました。



9月5日（金）、桃和会の岩谷和文さんと佐々本博信さんが、旭中学校で行われた、探求活動《SDGsへの取り組み》の見学に行きました。

パフェを作る時に出る桃の皮と葉っぱを使って染物に挑戦！煮出しながら、「何色になるのか、楽しみ」と興味津々の中学生。仕上がりは、やさしい黄色に染まりました。

10月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 8:30手芸教室
5 8:30 自治会対抗 スポーツ 交流会	6 19:30 さくら会 (百歳体操)	7	8	9	10	11
12	13 19:30 さくら会 (百歳体操)	14 19:30生花教室 19:30ふれあい 福祉部会	15	16	17	18 8:30手芸教室
19 浜田市長選挙・ 浜田市議会議員 一般選挙	20 19:30 さくら会 (3B体操)	21	22	23	24	25
26	27 19:30 さくら会 (百歳体操)	28 19:30生花教室	29	30	31	

見て！
聞いて！

私のおすすめ！



小迫歳春さん
98歳

(本郷)

地域の方から「現役で農業を頑張っている、小迫さんのコンバインで稲を刈る姿」が私のおすすめ！と投稿があり、2度目の登場です。収穫したお米は広島と九州に住むお孫さんに送り、「新米、美味しかったよ！」との嬉しい連絡がきたと笑顔で話されていました。